

誇り・味方・居場所 —私の社会保障論



第2回

「子宮頸がんワクチン」の犠牲になった少女たち

「大切に育てた娘が、注射で青春も奪われて、痛みにもがいて、どんどんひどくなる。顔を歪めて、呻く娘。ゴメンネと私は言い続けている。あなたを将来ガンにさせたくなかった。その代償があまりにもむごい」

東京都杉並区から「中学入学お祝い」として「子宮頸がんワクチン」接種を知らされ、娘に勧めてしまった母、松藤美香さんが、悔恨の気持ちをこめて綴っている「みかりんのささやき」というブログの一節です。

この少女だけではありません。元気そのものだったのに、ある日を境に、陸にあげられたサカナのようにけいれんする、痛みが体のあちこちを移動する。病院を訪ね歩いても「精神的なも

のでは」といわれて傷つく。そんな経験をした家族たちがインターネット検索して、このブログにたどりつき、あまりに似ている経験に驚いて2013年3月25日、「全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会」を発足させました。

看病で手いっぱい家族たちを支えようと、首都圏の市議、区議が支援の会をつくり、日野市議の池田利恵さんが事務局長と連絡先を引き受けました。

電話番号が公開されると「わが子もそうではないか」と、全国から電話が殺到しています。

「子宮頸がんは死を招いたり、子宮を摘出することになる怖い病気だが、ワクチンで防げる」「5万円と高価だが、期日までに受ければ無料」といわれ、それならわが子に受けさせよう、と考えてしまったのです」。こう親たちは嘆きます。

厚生労働省は当初、こうした被害の訴えに耳を傾けず、2013年4月から予定通りこのワクチンを定期接種化しました。しかし



世界に広がる子宮頸がんワクチン被害。すでに30カ国。時間とともに症状は重なって、認知症のような症状も。

その74日後に「接種後にワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛が特異的に見られたことから、同副反応の発生頻度等がより明らかになり、国民に適切な情報提供ができるまで」という理由で積極的勧奨の一時見合わせを決定、現在に至っています。

子宮頸がんは、検診で早期発見すれば命も子宮も失わなくて済みます。ただ、日本のように男性医師の前で足を広げねばならない検診法では、女性は検診をためらい検診率は20%にと

どまっています。80%と高い英国では、訓練を受けた専門職の女性らが、診療所の普通のベッドの上で実施しています。

このような安全で確実な検診方法を検討することなく、まだ臨床試験段階のものを、十分な説明もなく少女たちに接種することは、中止すべきだと考えます。

このワクチンの公的支援が浮上したとき、厚労省の担当官は「長期的な効果や副作用の情報が十分ではない」「効果を過信して子宮がん検診を受けなくなったら大変」と警鐘を鳴らしていました。それが政治主導と社会的なキャンペーンの中で押し切られたのでした。



* 単行本
<http://lifesupport-co.com/order33/books.html>
 * 電子版
<http://www.shinanobook.com/genre/book/3443>

『誇り・味方・居場所——私の社会保障論』
 大熊由紀子著
 B6判変型 定価 1,600円＋税

子宮頸がん HPV ワクチンが 私たちの世界を変えた

一人に いろいろな症状が重なって出ているよ

急になる
いつも手足が冷たい

過呼吸
動悸

女
疲れやすい

夜は寝れない
朝は起きれない

目や鼻が痛い

頭痛

カメラをしないと目をあけられず光がまぶしい

カラダのいろいろなところが痛く、とずと痛く、痛くても起きてもずーと痛いよ

どこに行くにも車イス

カラダが勝手に重い、ちやう

おとと同じ姿勢でいられない

ま、すぐに歩けたい

母さん、いつになったら治るの？

進学もやりたいこともできなくなっちゃった

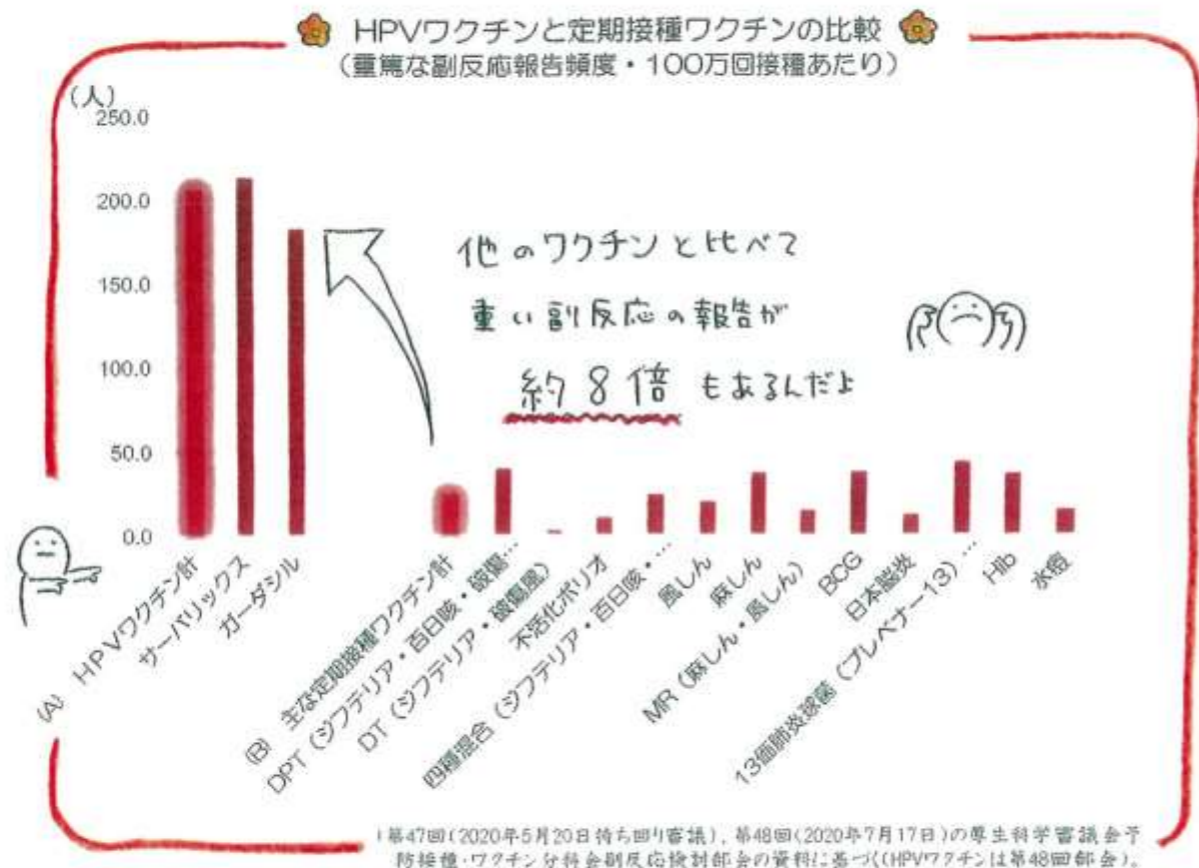
笑顔と未来を
私たちに

Keep Hope Alive

詳しい副反応症状については HPV ワクチン薬害訴訟全国弁護団のホームページをチェック

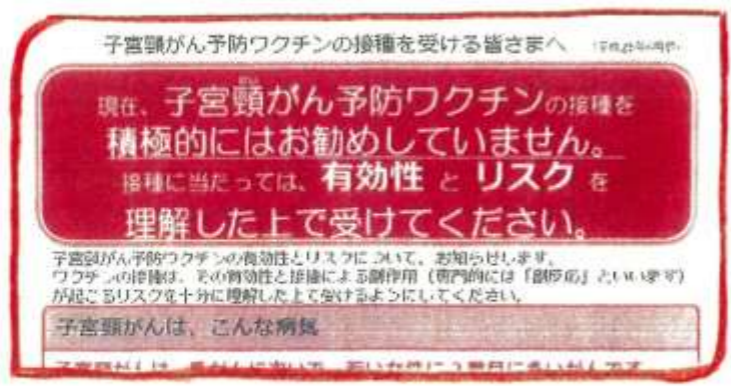
2020年9月発行 作成：HPVワクチン薬害訴訟全国原告団 連絡先：HPVワクチン薬害訴訟全国弁護団

打つ前に知ってほしい ~ あなたには後悔してほしくないから



ただし国は今でも HPVワクチン接種を
積極的な『お勧め』は中止しているんだね

厚生労働省が作成したリーフレット2013年6月版 抜粋



作成: HPVワクチン薬害訴訟全国原告団
連絡先: HPVワクチン薬害訴訟全国弁護団 2020年9月発行

註: 副作用と薬害

どんな薬にも副作用(副反応)はあるが、効果が不利益を上回り、それに勝るほかの方策がなければ、受け入れて治療や予防に使うことになる。薬害は、利益と不利益を比較する科学的データが曲げられたり、副作用情報が隠されたりした結果、被害を拡大すること。

副作用は薬が起こすが、薬害は人が起こす。

◆編集部からのインフォメーション

「子宮頸がんワクチン(HPVワクチン)」の副作用と薬害については、本誌「月刊ライフサポート」の長期連載である隈本邦彦著「この国の医療を変えるには…」をぜひご参照下さい。医療職(特に臨床の医師、看護師)が読んで認識して対処すべき知識と情報が詳しく記載されています。

特にお勧めは以下の記事です。

- ◎連載第12回「子宮頸がんワクチンの副作用と女子大生の“重い重い決断”」2013年12月号
<http://lifesupport-co.com/webmagazine201312/magazine3.html>
- ◎連載第50回「いま進行中のHPVワクチン薬害のドラマ」2017年4月号
<http://lifesupport-co.com/webmagazine201704/magazine5.html>
- ◎連載第57回「被害がなかったことにされないために—『HPVワクチン東京訴訟支援ネットワーク』設立総会より」2017年12月号
<http://lifesupport-co.com/webmagazine201712/magazine6.html>
- ◎連載第60回「子宮頸がんはほんとうにマザーキラーなのか」2018年4月号
<http://lifesupport-co.com/webmagazine201804/magazine6.html>
- ◎連載第61回「ほとんど報じられなかった重要な国際シンポ」2018年5月号
<http://lifesupport-co.com/webmagazine201805/magazine6.html>
- ◎連載第88回「HPVワクチン積極的勧奨を再開させてはならない!—予想される新たな被害者の受難と迫害」2020年10月号
<http://lifesupport-co.com/webmagazine202010/magazine5.html>